

バンドサークルのような活動スタイルだから 初心者も経験者も、 皆がライブハウスのステージに立てる！



バンドのメンバーは全員で11人。この日スタジオに集まったのは、メンバー9人とその奥様の計10人。「今日参加できなかったのは20代と30代のメンバー。1人は仕事、あと1人はパーベキューで(笑)」と、バンドリーダーの村尾一機さん(写真左端)。

バンド名 **Re:youth(リ・ユース)**

結成時期 **2013年6月**

モットー **ボケ防止(笑) 若さを失わない！**

練習頻度 **月2回(ライブの約半年前から)**

平均年齢 **38歳(40代:8人、10~30代:各1人)**

メンバー	村尾一機(ボーカル、ギター)	田坂隆司(ベース、ギター)
村尾一眞(ドラム)	石田 薫(ベース)	
池田祐作(ボーカル、ギター)	金子真弓(ボーカル、キーボード)	
櫻井圭一(ボーカル、ギター)	瀬川真二(キーボード)	
浦野充敏(ボーカル)	葛井 理(MC、ボーカル)	
加治佐敦智(ボーカル)		

活動内容 **ライブを決めてから練習をスタート。結成以来、大阪のライブハウスでこれまでに4回ライブを行った。**



「僕たちのバンドは、バンドというよりサークルのようなイメージですね。曲によってメンバーが入れ替わるので」
ここは大阪府堺市の練習スタジオ。演奏の真っ最中だが、スタジオの隅で待機したり廊下で談笑しているメンバーもいて、バンドリーダーの村尾一機さんの言葉通り、まさに「サークルの部室」という雰囲気。二〇一三年に四人のメンバーで活動を開始したという「Re:youth」は、

現在は十一人の大所帯バンドだ。

「ライブが決まると、月二回くらいのペースで集まって練習を始めます。だいたいライブの半年前くらいからですね。でも年末から三月にかけては、活動は抑えめになります。確定申告の時期なので」

なぜその時期に活動休止状態になるかというと、実はこのバンド、十一人中九人のメンバーが税理士なのだ。確定申告の時期は税理士の繁忙期。よってこの時期は仕事が優先になる。

「税理士は地区によって支部があって、皆、同じ支部の飲み会などで顔見知りだったので、楽器ができるという人に声をかけて、二〇一三年



ドラム担当の村尾一眞さんは中学3年生。受験生なので現在は活動をお休み中だが、この日は特別に練習に参加してくれた。

十一月に四人で最初のライブをやったんです。一回限りのつもりだったのですが、これが意外と盛り上がり、じゃあメンバーを増やして二回目もやろうと。それを続けているうちに人数が増えて、今のようない形になりました」

この日の練習曲はザ・ブルーハーツの『キスしてほしい』とプリンセス

バンドに入るために楽器を始めたというメンバーも少なくない。写真左の瀬川さんは、現在、キーボードのレッスンに通っているのだそう。



練習を積んで上達したら、オリジナル曲に挑戦したり、曲を作らためてCDも制作してみたいそう。「別にプロじゃないから、長いスパンで考えていきたい」と村尾さん。

メンバーはほぼ全員が税理士。「土日はゴルフをする人が多いから、ゴルフをしない税理士がこれだけ集まった奇跡のバンドです(笑)」

スプリングスの『M』。演奏するのは一九八〇〜九〇年代のJポップが中心だ。メンバーは当時のバンドブーム世代だが、ほとんどの人が楽器を演奏するのは数十年ぶりか、未経験だったという。でも曲によってメンバーが入れ替わるから、一人ひとりの負担は軽くてすむ。演奏できる曲が少なくても、ライブに出演することができ

るのだ。

そんな中、結



成当初からのメンバーで、最年少の十五歳にして楽器歴十年というのが、ドラム担当の村尾一眞さん。バンドリーダーの村尾さんの息子さんだ。一眞さんが五歳のとき「将来一緒にバンドをやろう」といって、ドラムを習わせた」ということなので、計画は見事に大成功。そもそもこのバンドの結成のきっかけは、中学生になった一眞さんにライブハウ

仕事をしながら音楽を楽しむ/ 音遊人大募集!

現在活動中のアマチュアバンド、楽団を募集しています。
ジャンルは問いません。ぜひ取材にご協力ください

詳しくは74ページをご覧ください

スでの演奏を経験させてやりたいという、村尾さんの親心だったのだという。
最初のライブから二回、三回と回数を重ねるたびに会場の規模も大きくなり、お客さんもメンバーも増えてきた。次のライブは、一九七八〜八九年に放映された音楽番組『ザ・ベストテン』の形式で、十三曲を披露する予定だという。その次のライブをするころにはメンバーもレパートリーもさら増えて、歌謡祭だってできるかも!?